



Homo sapiens to Homo luminous – a client story
by Chris (Namaste) Turner

光の人への進化 - クライアントの体験談

またまた素晴らしいクライアント（他のクライアントも皆そうだ）が信じられないような過去世の公開に承諾していただいたことに心から感謝したい。この話は社会から孤立させられた人は、神のような存在になる場合があるという可能性を示している。

このセッションは私にとっても異常なものであった。それは、私がヒーリングを行なうのは、ただクライアントのヒーリングに関わったり、有益な情報を得るだけではなく、人々に現世でのミッションを思い出さ、その方向に向かう手伝いをする任務を与えられていることを、私自身が納得させられたからである。私たちは、時にはミッションを持って計画して地球に生まれてきたにもかかわらず、関係ない人生を何度も繰り返すことにより、実行すべきミッションを思い出すのがほぼ不可能になってしまう。奇妙なことに、このクライアントは肉を食するのだが、彼のミッションは肉を食べないことになっている、、、奇怪な話だ。



クリス（フェイスブックでは Ras Namaste ）：周りに何が見えますか？

クライアント：えー、何だろう？木か、、、最初は雪かと思ったのですが、雪ではないかもしれません、ただの木です、松のようです、緑色して、こげ茶色の幹があります。

クリス：先ほど雪と言いましたが、周りに雪があるのですか？

クライアント：雪は木にかかってないと思います。周りにはあったと思います。

クリス：それは林ですか？

クライアント：はい、森林のようです、、、

クリス：分かりました。下を見て、足に何か履いているかどうか教えてください。

クライアント：えー、下を見てます、松葉のようなものが落ちています、乾燥したもので、、、足については、えー、見えるのですが、、、それは何か、、、（何か言うのを避けているようだった）

クリス：大丈夫ですよ。

クライアント：えー、、、

クリス：分かりました、、、目の前には木があるのですよね？

クライアント：えー、、、

クリス：どこかに行く必要がある感じがしますか、それとも何かしなければならないことでもあるのですか？

クライアント：そんなことはありません。

クリス：そうですか、、、目の前に木があるのですよね、違いますか？

クライアント：私は木に囲まれています。

クリス：ああ、では森の中に居るのですか？

クライアント：はい、ただ森の中を歩き回っているようです。どこかに行くのではなく、ただぶらぶらしているのだと思います。

クリス：そうですか。木のほかに何か見えますか？

クライアント：下のほうにはシダが生えています。

クリス：鳥のさえずりのようなものは聞こえますか？

クライアント：えー、そうですね、はい、でも木から落ちる水の音かもしれません。

クリス：雨が降っているのですか？

クライアント：融けているのだと思います。

クリス：雪が融けているのですか？

クライアント：はい。

クリス：森の中で、何をしていますのですか？

クライアント：森の中に住んでいるのだと思います。よく分かりません、、、素足のようです、足が見えますので、でも本当にそうなんでしょうか、素足ですよ。

クリス：大丈夫ですよ。貴方は森の中に居て、そこに住んでいるかも知れないと言うなら、今仕事か狩をしているのでしょうか？

クライアント：そうですね、狩をしているのかもしれません。背中に何か背負っています。弓矢のようなものかもしれません。

クリス：どのような衣類を着ていますか？

クライアント：「皮」のようなものです。

クリス：すごいですね、寒さから身を守らねばなりませんものね？

クライアント：はい。

クリス：男性ですか、女性ですか？

クライアント：女性だと思います、足は私の足のように見えますから女性だと思います。

クリス：もう少し後で、さらに詳しく分かります。若いですか、年をとってますか？

クライアント：かなり若いです、二十歳かそこらです。

クリス：いいですね。体は健康ですか？

クライアント：はい！

クリス：すばらしいです。何か装飾品を見につけていますか？

クライアント：皮で作った、、、木のビーズがついた下着を身に着けています。

クリス：何かを持っていますか、背中に弓がありましたよね？

クライアント：はい、それが必要になるかもしれませんが、、、よく分かりません。

クリス：もちろん矢もありますよね？

クライアント：そのようなものはあります、はい。

クリス：貴方が立っている場所についてもう少し話してくれますか。松葉の上にいると言いましたよね？その地面は何で出来ているの、、、

クライアント：それは茶色で、誇りっぽくて、松で、森の中の通り道だと思いますよ。

クリス：多分その近くに住んでいるのでしょうかね？

クライアント：はい、木材で作ったものの中に住んでいます。

クリス：いいですね。では貴方の家に行ってみましょう、そして外から見てみましょう。

クライアント：木の皮で作られたものです、、、幹の皮です。形に成ってません。乱雑に作られています。ドームのようですが、木が成長したので、上手く治まった感じです。

クリス：すごいですね、少なくとも雨露はしのげますね。

クライアント：外側は木の皮で、内側は、、、木が縫い込まれているので、家の中に森があるように見えます。

クリス：それは完璧な小屋のようですね。とても簡素な生活のようですね（はい）家の中に何があるか教えてくださいませんか？

クライアント：かなり小さな家です、でもかなり暖かいです。火もあります、家の真ん中だと思います。多分ね（素晴らしい）屋根は何か分かりません。それがどうして、雨を防ぐか分かりません。

クリス：二階はないですよ？

クライアント：そうですね、でも部屋のようなものはあるかも知れません。部屋と呼べるかどうか分かりませんが、小さな小部屋のようなものがあります。入り口から入って、そこを通り、ここに来ました、、、火の向こう側です。

クリス：入り口からそこに通じているのですね？

クライアント：はい。それはですね、えー、仕切りが無く、アーチのようになっていて、そこを通り抜けます。

クリス：いいですね、そこで眠るのですか？

クライアント：多分そうだと思います。入り口のところに、外から帰ったときに色々置きます。そこで料理もします、座る為のベンチがあるかもしれません。

クリス：いいですね、とても簡素です。驚きですよ！環境を何も傷つけない、理想的な住処だと思います。自然に完全に溶け込んだ、素晴らしいものです。そこに火があると言いましたか？

クライアント：はい、今もいくらか煙が出ています。傍に皮があって、乾かしているようです。

クリス：皮は、自然から身を守る為に必要ですよ。狩に出たときに何か捕らえましたか？

クライアント：したくなかったのです。

クリス：何をしたくなかったのですか？

クライアント：傷つきたくなかったのです、、、（泣きそうになる）

クリス：大丈夫です、かまいませんよ。私も同じような経験をしたことがあります。最後には傷つけない選択をしました。野菜を食べて居ればそれで良いのです。でも部族によってはそのような選択もしますよね、そうする必要があるかもしれないし。生きる為の食物が、動物しかないときには、狩もかまわないでしょう。ですから、狩をしても問題ないと思いますよ。狩をしなくても良い時が来るかもしれません。貴方は家において、狩に行かなかったのですよね。

クライアント：私は狩に行く振りをしました（そうなのですか）私は出かけて、何も獲物が無かった振りをしました。

クリス：それも大丈夫ですよ。そうしてもよいと思います。でもそのときの状況では、そうした行為は両親に理解できないでしょうね。私たちには生きる為にすべきものがあると思っていますから。貴方は動物の命をとることについて、快く思っていないのですね？

クライアント：はい、だから私はベリーを食べます。

クリス：それはいいですね。

クライアント：黒いベリーで、結構大きいです。それを食べて、肉は食べないようにしています。

クリス：テーブルについて食事をするときは何を食べるのですか？テーブルはあるのでしょうか？

クライアント：分かりません。木のベンチはあります。床に座ってベンチで食べます。

彫って作ったお碗を使います。座って体を立てて食べるのかもしれませんが。木のお碗は手

に持ちます。

クリス：木のお碗から食べるのですね？

クライアント：その中には何か熱いものが入っているときもあります。おかゆのようなものか、スープか、そのようなものです。

クリス：では料理したものもあるのですね。他に一緒に食事をしている人はいますか？

クライアント：よく分かりません。私が何も捕まえてこなかったことに、後ろめたさを感じたというのは、恐らく一緒に住んでいる人が居ると思いました。

クリス：貴方の両親ですか？

クライアント：そうかも知れませんが、両親はそこに居ると思ったのですが、ここにはほとんど来ません。私は家を出て、私の小さな家で一人で暮らしているかもしれません。私は家の中に死んだ動物が居るのがいやだったのです。私の家ではただベリーとかそのようなものがあります（果物ですか？）はい。多分私は家を自分で作ったのだと思います、とにかく肉が食べられなくて、、、肉は嫌いでした。

クリス：それが一番良いのではないですか、動物を殺す必要が無くなったし、、、でも一人で暮らして楽しいですか？

クライアント：ハーブがあります。ハーブを探して、使います。

クリス：素晴らしいです。もともと肉はあまり食べないほうが良いですから（はい）どうして肉を食べなくなったのですか？



クライアント：それは大きなホッキョクグマでした、かなり大きかったです（泣きそうになる）

クリス：大丈夫ですよ、過去の話ですから。

クライアント：彼は私の友人でした。それを彼らが殺したのです。（今にも泣き出しそう）

クリス：多分貴方の両親は、食用となる動物とは友達にならないのでしょうかね。

クライアント：なりません。

クリス：それは当然だと思いますよ。貴方が肉を嫌いなこと、それと、友人のクマが殺されたこと、ただそれだけの簡単な理由で、貴方が家を出たのは驚きです。あのホッキョクグマは貴方にとっては先生のような存在で、貴方の為に自らを犠牲にして、そのような生活はあまりよくない、けどやがて、貴方自身で生き方を選ぶときが来ると教えてくれたのだと思いますよ。そしてどうやら貴方は自分の生き方をすでに選択したようですね。だからそれは良かったと思います。今は一人で暮らしているのですか？（別なレベルでは、クマの死は何の問題が無かったと思う、なぜなら、生き物が死ぬことは無いから！これは、天使の犠牲であり、神が間違えることは無い！）

クライアント：はい、私は自分の小屋で暮らしています。私が家を出たのは、両親の生活様式に我慢でき無かったからです。私は家を出て違うことをし始めました。ハーブも細かくして使います。それで何をするのか分かりませんが、使うのです。



クリス：薬を作るのでは？

クライアント：はい、それを練って糊状にし、家の中で屋根から干して乾燥させます。すると乾燥して小さくなります。

クリス：私が一人暮らしをしていたときに、全く同じものを作っていました。乾燥させることにより、香りがよくなったり、薬としての効き目も強くなります。（はい）かなり効

き目のある植物ですよ？（はい）それは食事の一部になるのですか、それとも薬ですか？

クライアント：それは私が食べるものだと思います。誰かが病気の時には薬としても使えます。このような生活をしていると、その使い方は自ずと分かってくるものです。それを使うには、、、月がちょうどいいときに採集する必要があります。多分私はそれを知っているのだと思います、だからやっているのです、そうしたものは全て、繰り返しやってきます、ですから適時に行ないます。乾燥されると、力が、、、あれをする力があるのですが、なんと表現したらよいか、、、

クリス：命を与える力、ですか

クライアント：そうです、、、いや、分かりません、ある意味そうなのですが、、、力なのです、力を引き出す、、、

クリス：ああ、ヒーリング・パワーか生命力でしょう。貴方の食物は貴方の薬でもありえますから。

クライアント：はい。食べ物と薬は二つの別なものではなく、二つは同じ一つのものですね。

クリス：そうですね。それでは貴方はこの土地のハーブと果物で生活をしているのですね。素晴らしいです。

クライアント：別な場所に行くときは、あるハーブを食べます。それを食べると、自分の、、、

クリス：意識ですか？

クライアント：はい、それを食べると意識がそこに行けるのです、、、その場所はどこか分かりませんが、意識が異次元か何かに繋がるのです。

クリス：ハーブの中には、貴方に何かを見せたり、どこかに連れて行くものもあるのですね？

クライアント：意識だけが行くのです。体が行くとは思えません。体は小さな小屋に居ても、旅行が出来るのです。私がここに座っている限り、体はここにいます。でもあるハーブを食べると、他の何かに繋がるのです。それは、えー、、、

クリス：異次元

クライアント：はい。他の人種と会い、会合を開くのです。

クリス：すごいですね、そんな高いレベルですか。

クライアント：会合を行なう仲間が居ます。集まって輪を作って座ります。

クリス：貴方はシャーマンですか、シャーマンのようになったのですか？

クライアント：はい、そうなのかもしれません。でもなんと言うタイトルが分かりません。

クリス：かまいません。

クライアント：私はハーブレディーと呼ばれています。彼らは私をおかしな人だと思って

います。皆はハーブレディーと言いますが、それがシャーマンと呼ばれるとは知りませんでした。

クリス：シャーマンはもっと新しい呼び方なのかもしれません。貴方はハーブレディーで自分の面倒は完璧に出来る人ですね。

クライアント：私はあれから年をとったと思います。最初に森に行った日を覚えていません。たぶん、狩をしなくなったときだと思います。私は隠れていました。今分かったのですが、私はハーブレディーで弓矢は持っていません。

クリス：素晴らしいです。弓矢は持っていないのですね。それでは、貴方がハーブを食べて、他の人たちと一緒にいる時に入ってみましょう。丸く輪になって座っているところです。

クライアント：（口ごもりながら）紫色のハーブでした（えっ、何ですか？）私が食べたのは紫色のハーブでした。（分かりました）そして、、、よく分からないものが（大丈夫、分からなくともいいです）はい、それから私が行くのは、、、大きな輪です。大勢の人が、、、存在体が、、、話し合っています。会議の進行には決りがあります。会議は全てテレパシーで行なわれます。でも言葉も使います。次に誰が話すかはテレパシーで伝わってきます。ですから、全員が、次に話す人が誰だか知っています。発言は常に言葉かどうかは分かりません。時には、誰かが、思考を輪の真ん中に投げ入れてきます。するとその思考が物に変わります。それは、、、私たちに何かを示してくれるのですが、エネルギーのようで、みんながそれを見ます、するとそのエネルギーを吸収できて、それで何か学べるのです。

クリス：そのものからは、吸収することによって学ぶのですね？

クライアント：はい、私たちはその色を見て、すれを吸い込むか何かして、体の中に取り入れます、、、それが体の中に入ってくるのかもしれない。

クリス：分かりました。貴方はこのコンスルの一員で、そのためそこに参加するのですか？

クライアント：はい。そこに居る人、存在体、の数は33人くらいかもしれません、よく分からないのですが、その数は増やされたのかもしれない、私が参加したいと申しましたので。いずれにせよ結構な数の人の集まりです。そして人と中央の間には区切りがあって、それが幾何学的で、完璧な幾何学模様で、、、完璧に幾何学的です。まるで整然と並んだオレンジの小袋のようです。（言ってることがよく分かります）そして、貴方には地面に引かれた線を見ることは出来ないと思いますが、皆は線があることを知っています、、、実を言いますと、私たちはここで何をしているのか、よく分かりません。ここは学びの場所だと思います。でも学んでいるのか、何かの手伝いをしているのか、分かりません。

クリス：他の次元からの助けですか？（長い合間）貴方が学んだことについて、誰かに話

すことはあるのですか？貴方に会いに来るよう人はいますか？

クライアント：いいえ、いないと思います。それは誰にも理解できないことなのです。だから私はただそこに行くだけです。そこに居る人たちは私のグループです。私はその人たちとだけと話し合います。（ああ、なるほど）これらの存在体は、全員が人ではありません、中には別な世界から来た人も居ます。でも皆私のグループです。自分の家に帰ると、そこには人は居ません、でも動物たちが居ます。私の友達です。

クリス：そうですね。貴方は普通の人以上に動物たちに信頼を置いていると感じました

クライアント：はい。それはまるで、他の人たちは過去に居て、私は現在で生きているようです。今の世界は進化した文明で、私はこのサークルに参加している。

クリス：サークルにはいつ行くのですか？

クライアント：会議が招集されたときです。それはサークルと呼ばれ、会議室には常に区分があり、必要な物は中央に置かれます。

クリス：参加者が学ぶ為に使用するために、その中央で映像を映すことはありますか？

（分かりません）人生について学ぶことはたくさんありますよね。ですから、貴方は他の人にたくさん情報を与えることができると思います。それでは貴方が情報をサークルの皆さんに与えている場面に移動しましょう。貴方が思考の形を中央で投影する場面です。

クライアント：どうでしょうか、、、また紫色です、紫色のハーブです。（あー、はい）それについての情報を分かち合います。でもその情報が、皆さんに有益かどうか分かりません。私のハーブについて説明します。もしまだあまり進化していない人が居たら、その情報は役に立つかもしれません。そのような人が居るかもしれませんのでこの情報を提供します、、、人々によって進化の程度は様々ですから、ある人たちは、もっと進化したところから来ていますし、ある人たちはそこまで進化していない人たちもいます、、、そして私たちは新しい世界を作るのです。（それは素晴らしいですね！）新しい世界を創ったら、そこでハーブで作る薬品の知識のようなものが必要になるかもしれません。（なるほど）その知識をサークルに提供すれば、みんなが理解し、そう、誰でも理解出来ます、そしてそれが必要になれば、その土地で使うことが出来ます。

クリス：新しい世界を作るのですか？その時には、このハーブもぜひ持ち込んでください、そうすれば、皆さんも別な世界が見えるでしょうから。もし私とか、誰でもそのハーブを食べたら、貴方のそのサークルに行くと、同じ人たちに会えるのですか？（可能性は無いと言えませんが、分かりません）では貴方だから出来たのですか（貴方も出来るかもしれませんよ）多分貴方だから出来たのでしょう。でも誰かを一緒に連れて行くことは可能でしょう。（そうですね）でも、もちろん、そのようなことに興味がある人間がいなければだめですが。

クライアント：えー、毎回同じ人で無ければならない訳ではありません。毎回来る人の場所の数は同じです。誰かを同伴することも可能です。（それはいいですね）誰かを連れて

きてよいか訊ねることはできますが、サークルのリーダーは居ないので。(そうなので
すか)ですからグループ全体に聞くのです。グループ全体がリーダーですから。

クリス：全体が一つなのですね。

クライアント：階級組織になってません、参加者全員が同等なのです。

クリス：いいですね、人生を始めるに当たって、人は皆そうあるべきです。でも人間社会
を見ると、醜いものがあります。でも貴方のその社会では純粹を求めるんですね。(は
い)。貴方が動物たちと仲良くする前から、そうした人々と繋がっていたと思いますか、
それとも、他のみんなが食べる動物の肉を食べないことがそうさせたと思いますか？

クライアント：軽くなったと思います。肉を食べなくなったら、軽くなったと思います。

クリス：そうだったのですね。□を□べると□□が□い□□になるの(はは) どうしてそうなる
か□見てくれますか？ □□又丸の□丸ちは□の

事についてなんて言うのでしょうか？肉を食べると、どうして体が重くなり、
時には愚かになり、さらに進化が遅れるのですか？

クライアント：密度が高くなるのは、、、他の「生きている」ものを食べると、その生き
物の感情を消化するので(はい)その感情を貴方の体内で処理しなければならないのです
(えー!)それが結構大変なことなのです。ですから、他の生き物は食べないほうが良い
のです。

クリス：もっと生きたかった動物は特にそうでしょうね。

クライアント：植物だけ食べていれば、、、さらに、えー、、、愛情を持って植物を育て、
愛情を持って収穫し、それらが食べても良いといったときに食べる事がよいことなのです。
(はい)承諾なしに食べることはしないほうが良いのです。

クリス：私は野生のベリーを収穫するときはいつも感謝の念をささげます。(はい)それ
では、向こうの世界では、地球での教えよりも、なり優れたことを教えるのですね。

クライアント：はい。向こうでは、光を体で吸収する方法を教えます、そしてその光を使用
して、体を光り輝かせる方法も教えます。光り輝く体があると、えー、、、どこか別な
ところに行って仕事をすることが出来ます。

クリス：あー、光の体ですね。

クライアント：光の体、ですか、そうですね。光の体になれます、はい。その体で行って、
するのは(ささやき声)何をするのでしょうか？

クリス：そうですね、、、やらねばならないことはたくさんあると思います。一つだけ
言っても意味ないと思います。

クライアント：はい、何でも、しなければいけないことをします。する必要のあることを
します。必要とされる場所に行きます。その時私の体、この小屋に居る私の体は動きませ
ん。私はそこに10分間座ってます。でも実際にはコンスルに行き、義務を果たします。
その間はかなり時間が経ったように思われます。

クリス：なるほど。

クライアント：世界を創造することも出来ます。

クリス：そうですね。向こうでは全てが速いですよね。

クライアント：はい。

クリス：それを、こちらの世界ですることは可能ですか？光を吸収して、他の人に向かって光を放す。私たちが発光することは可能ですか？

クライアント：あのね、今回は私はそれが出来ました。人間と交流する為に来ているので、人間の手伝いが許されているし、手伝える方法も知っています。以前は私は人間と交流しませんでした、人間があまりにも原始的だったからです。（攻撃的過ぎますよね）彼らはそのようなことが出来なかったのです。でも今私は出来るのです。あの紫色のものが私には何か分かりません。それが必要な物なのかもしれません。でもそれはきっと、えー、、、

クリス：貴方は、自然にコンスルのメンバーになったのですか？

クライアント：はい、それは33名のコンスルです。コンスルは、ただコンスルだと思います。（私は、ただ私です）

クリス：33名のコンスルですか？

クライアント：33名のサークルと言ってもいいです。そのようなものです。

クリス：いずれにせよ、参加者の間に線を引くと、それは見事な幾何学模様を作るのでしょ。（はい）クリスタルの構造ですよ。これは貴方のグループの魂でありえますか（はい）そしてまた貴方の魂のグループですね？

クライアント：多分ね、はい、そうかも知れません。

クリス：貴方の人生において、彼らは心の指導者でありえますか、、、将来貴方が誰に生まれ変わろうと、再び彼らのところに行けるとおもいますか？

クライアント：どういう意味ですか。サークルメンバーの一人のところに行くのですか？

クリス：えー、例えば、今貴方はハーブレイディーですよ（はい）未来の人生で、貴方が再び、コンスルに行くことはできますか？

クライアント：分かりました、聞いてみます、、、皆は、そうする事が私の役目だと言っています。

クリス：素晴らしい。それではまた、貴方を再びつなげましょう、あなたの魂のグループ、33名のサークルに、貴方の今のこの人生をつなげるのです。

クライアント：はい。そのうちの数人は、、、やって来て、、、私の友人となり、、、今来ることになり、、、彼らは、、、我々は、、、私は全員は知りませんが、数人は今来ることに決めたようです、、、そしてみんなと合流します。

クリス：貴方のサークルのメンバーですか？

クライアント：はい。でも全員は知りません。メンバーのあるものは別な場所で仕事があるのかもしれませんが。でも私たち数人は肉体を持っています。接点があります、接点があるのです、ですから私たちは地球と繋がることができます。

クリス：サークルと地球の接点ですか？

クライアント：はい。

クリス：サークルからのエネルギーを地球に送ることは出来ますか？ヒーリング用のエネルギーなら、地球に必要です。

クライアント：私がそこに行っていなければなりません。行って、出来るかどうか試して見ます。

クリス：かまいませんよ。

クライアント：皆、サークルに居ないといけません、皆が同じ場所に居て、そこで起きることは、、、皆がしなければいけないことは、、、何というか、、、説明するのが難しいです、、、自分のエネルギーとかなんとかを一度に中央に放映して、「そう、私たちはそのようなことをするのです」皆が同時に中央に放映ます、すると、それぞれが必要な場所に行くのです。だから、皆でひとつのことをすることはあまりありません。でもそれが特別なことで、特別な状況の元で行なわなければならないときとかには、皆で行って、えー、言わば、グリッドを稼動するような、、、グリッドを稼動すると、中央では炎のようになり、紫色の炎です（そうなのですか）そうすると、それは、紫色の炎は、それが必要などころに行くのです、必要とされる場面に行くのです。



クリス：では、何かをしようと思っただけで、座って、33人が一つとなってエネルギーを作り、そのエネルギーはそれ自身の意識があり、自ら、貴方が行って欲しいと思っるところに行き、そこで何かをしたり、ヒーリングしたりするのですか（はい）意図しただけで、それは勝手に行くのですね？

クライアント：そう、その通りです。私たちは意図するだけです、何かがそうなるべきと思うだけです。ですから、、、何も言う必要な無いのです。ただそこに行き、ただそのことに思いを置き、エネルギーを中央に置くのです。皆で同時にします。そうするとそれが行くのです、、、

クリス：この意図は、「根源」の意図なのですか（それは分かりません）例えば、貴方が、

母親のヒーリングをしたいと思ったときに、貴方がサークルに行き、貴方が頭で思って、皆が集まって、ヒーリングのエネルギーを送ることは可能ですか。

クライアント：それは可能です。でもそのことは簡単なことなのでみんなが集まるようなことはしません。私たちがすることは、、、しないことは、、、。

クリス：あー、はい、分かりました。貴方たちがすることは、星に関する事、銀河系に関する事、異次元に関する事ですね。

クライアント：もっとエネルギーが必要なことです、でも母親のヒーリングをしようと思えば出来ますよ

クリス：でもそれは極簡単なことだと、みなされるのでしょ？

クライアント：はい。サークルのほとんどの人は、そのようなことは一人でも出来ます。ですら一人の人にヒーリングのエネルギーを送る為にサークルに行く必要はありません。でも、そうする必要があるのでなら出来ます。

クリス：貴方をお願いするにはあまりにも小さなことだとは分かりました。では惑星全体のヒーリングはどうでしょうか？私たちの惑星である地球の、今の状態です。今地球は消滅してしまう危険がかなり高いです。貴方のサークルでは、その点の助けはしてくれているのでしょうか？例えば、もっと光とか、ヒーリングを地球に送っているのでしょうか？アセンションや新しい地球についてはどうでしょうか？

クライアント：サークルはいつも一緒に居ます。サークルはいつも地球の傍にいます。サークルは地球を作り、地球が良くなってほしいと思っています。でも分からないのです、、、何が起きたのか、何かが間違ったのか、、、皆は、私たちは、そこへ行き、仕事をして、それをして、地球の為に仕事を知っています。

クリス：貴方は最初に地球を創造した人の一人なのですね？

クライアント：よく分かりませんが、多分そうかも知れません。私には大き過ぎるように思うのですが、サークルにとっては、大き過ぎることはありません。サークルで行なうと出来るのです。一つの世界を作ろうとすると作れるのです。

クリス：では、地球全体を創るのは小さな仕事ですか（違いますよ）今の地球のヒーリングを行なう仕事はどうですか？（易しいです）

クライアント：今そうした仕事をしています。ですが、サークルの人たちは自分たちが何者であるか、今思い出しているのです。皆が全てかどうかは、、、私には思えないのですが、、、しばらくサークルに行っていないので、、、以前は皆よく行ったのですが、、、かなり頻繁に行ったものでした。

クリス：地球にですか？

クライアント：サークルです。森に住んでいたときにはよくサークルに行きました（そうですか）でもかなり昔のことです。当時はサークルの会合は良くありましたが、最近私たちは会合のことを忘れていたようです。（そうなんですか）何か別なことに気を取られて、

別なことをし始め、サークルのことを忘れていました。私はサークルのメンバーであることを忘れていました。

クリス：仕方ないのではないのでしょうか、人生によくあることです。気を取られることは多くありますよね、特に今がそうですが、将来にはさらに多くなると思いますので、サークルのことを思い出すのはさらに大変になると思います。ですから今のこの時代に戻ってきたのは良かったのではないのでしょうか。忘れた人に思い出させられますから（はい）ですから貴方が戻ってきたのはとても良いことですよ。

クライアント：サークルはまた会合を始めていると思います。

クリス：はい、貴方は3人の人に会うのですよね？

クライアント：何人に会うのかは、未だ分かりません。そのうちの2,3人はすでに知っています。さらに数人とも会うでしょう。実際その場で会う人と、他の場所に居る人と何人会うかは未だ分かりません。ある人たちは、私を含め数人が居なくても仕事をするかもしれない。多分全員そろわなくてもなんとか仕事をする事ができると思います。

クリス：そうしたことが、今の段階まで進行しているのが、貴方の心の中ではっきりと見えるのですね、貴方はそこに居るのですね？（はい）それでは今しているこのセッションでは、サークルを再開するか、サークルにつながる為に行っているのですか？なぜなら、これ人間の忘れ去られた技術で、肉体を持っても可能であるからですか？

クライアント：人間だけではないのです、他の存在体たち、、、（適切な言葉を探している感じ）も関係しています。私たちは皆最初は同じでした。（はい）でも彼らは、私たちは、えー、別々な場所に行き、、、だから私たちは皆同じなのですが、中には別な星から来るし、仕事も別な、、、

クリス：別の惑星ですか？

クライアント：そうだと思います、はい。地球からは私だけが行くのかどうか分かりませんが、私だけかもしれませんが、、、よく分かりません。

クリス：ではサークルのメンバーは宇宙のいたるところに居て、別な惑星に居る人もいるけど、地球でのミッションは、今困難にある地球を助けることですか？

クライアント：私たちがそうしたければそうします。そこに行き、それをそれをして助けます。

クリス：サークルで、ですか？

クライアント：はい。それと、、、力も送ります。

クリス：必要とされているところに力を送るのですね？

クライアント：はい。

クリス：では地球とそこに住む人間を助けるのですね。そうした情報を受理できるくらいに人類が発達したのですね。33名のサークルの現在について質問できますか？

クライアント：そうした情報を理解できる人も少しは居ます。でも多くの人には理解でき

ません。

クリス：未だ野蛮な人が居るのですね？

クライアント：そうした人たちは、見かけも違います、、、洞穴にすんでいます（あー、なるほど）そして未だ肉を食べています。でも今はさらに悪化しています。皆は理解していないのです（感情的になる）

クリス：確かにそうです。私たちは動物と心で直接繋がっていることが分かると、動物を食べなくなり、そのことがもっとはっきり分かりますよね？（はい）全ての創造物と繋がっていることもです。という事は、肉を食べることが原始的な状態を抜けられない原因なのでしょうか？

クライアント：はい。肉食は人を現実とは違うトランス状態にします。それは考える力を失い、ただ、働いて、食べて、寝て、働いて、食べて、寝て、その繰り返しだけです。

クリス：そうなのですか。それは人類の進化という点では良くないことですね。

クライアント：もしかしたら、これは人類を進化させない為に、そうなっているのかもしれない。

クリス：考えてみると、そうなってはいけないと、教えてくれたのかもしれないね？

（はい）ですから、ある意味とても良い先生だったのですね、なってはいけないことを示してくれたのですから（はい）神がそのような人を作る目的は、それしかないですよ。そのような人が居たらどうなるかを見ているのでしょう。

クライアント：はい。

クリス：サークルに行って、光を吸収する方法を学んだのですね。

クライアント：光を吸収したら、それだけで生きていけますよ。光だけで生きていけるのです。

クリス：その通りです。

クライアント：サークルでは今緑色です。

クリス：その色が食べ物ですか？

クライアント：はい、緑色です、私には見えます。

クリス：それは理屈にあってますね。緑はヒーリング用の光です。

クライアント：はい。緑色は、かなりのヒーリング効果があります。

クリス：光だけで生きていけることは知っています。地球にも70年以上食べ物を食べていない人が居ることを知っています。それは意識と関係あるのですよね。（はい）光はどこで吸収するのですか？

クライアント：目の中に入れるのです。

クリス：目の中ですか、太陽を見つめるのですか。

クライアント：はい、目の中に太陽を入れることができます。

クリス：それは以前聞いたことがありますけど、、、どうでしょうか。緑色はヒーリング

をすると同時に栄養にもなるのですね？

クライアント：ヒーリングも出来ます、紫色もです。

クリス：紫色もですか。紫色の波動は高いのですよね（はい）大変な知恵ですね（はい）かなりの霊的進化です。

その人生の最後

クリス：では次の重要な日に行きましょう。

クライアント：皆が私を殺しに来ました、でもかまいません。皆は斧を持っており、家を破壊し、全てのものを持ち去りました。彼らには分からないのです。彼らはハーブが嫌いです。ハーブを恐れています。それを悪いものか何かと思っています。ハーブを使って私が彼らに何かをしようと思っています。何もしないのに、、、

クリス：貴方がハーブを使って、何か魔術でもしかけるのかと思ってるのでしょうか？

クライアント：彼らは子供たちが私のところに遊びに来るのを止めたいのです。子供たちがハーブについて、何か学んでしまうと思っているのです。

クリス：えー、そうなんですか、それはまずいですね。でも貴方はかなりの老女になってますよね？（はい）そんな貴方を尊敬しないのですか？

クライアント：私はかなり年をとりましたが、老化はあまりしていません、中年のままかなりの年月を経ました。40歳くらいに見えるのですが、40歳をもう200年続けています。

クリス：あー、なるほど、それは光を食べていたからでしょう。

クライアント：それが彼らには不可能に見えるのです。理解できないのです。私はあまりにも違いすぎました。

クリス：彼らはどうして、貴方の話を聞かないのですか？誰かがそんなに長生きして、病気もしなかつたら、私なら、、、どうしてなのか、その方法を知りたくなりますけどね（彼らは違います）私なら、その秘密を知りたいと思います。

クライアント：彼らはただ狩をして、大きな火をたいて、ご馳走を食べるのです。たっぷり食べたいのです。そうしたいのです。それだけしかしません。彼らにとって一番大事なのは食べることです。何か特別なことがあると集まって食べる、それが彼らにとって最高の幸せなのです。

クリス：動物を殺して食べるのですよね？

クライアント：他に何も無いこともあるのですが、それが彼らのご馳走です。

クリス：それしか出来ないのですか？そこで彼らは意気投合して貴方の家を壊しに来たのですか？

クライアント：（ニコニコしながら）はい。

クリス：貴方はそれでかまわないのですか？

クライアント：はい。私はハーブを食べることが出来ますから。私はその前にハーブを食べたので彼らに来ることは分かっていました。私はサイキックです。私はハーブを食べて、体を離れます。ですから痛みはありません（そうなのですか！）そしてサークルに行きません。皆はやってきて、すべてをめっちゃめっちゃにしています。

クリス：逃げ道はあったのですね、すばらしい。

クライアント：私の体は奪われました。

クリス：では、実際彼らは実行したのですか（はい）彼らは貴方が寝ている間に捕まえたとも思っているのですか？捕まえて何をするのでしょうか？（私は普通はこのような質問は絶対避けるのだが、このときは、なぜか知りたかった）

クライアント：私を火の中に投げ入れたと思います。私を、いつもご馳走を食べる場所の真ん中にある火のところに連れて行き、火の中に入れたと思っています。だけど実際には私はそこに居ません。

クリス：もちろん、貴方は実際そこには居ませんよね（笑う）聞きにくいことですが、彼らは貴方を食べたりはしませんよね？

クライアント：しません。ただ焼くだけです。

クリス：完全に殺す為ですか？

クライアント：はい。彼らは家を焼き、ハーブもすべて焼きました（泣きそうになる）私は動物たちが、かわいそうなのです。

クリス：大丈夫です。そのような冷たい人たちを後にして前に進んでいきます。私たちも進化しますから。私たちも、向こう側にいるエネルギーたちに会う機会があります。動物たちを狩ると言いましたが、動物たちも本当は死なないのですよね？（その通りです）それはただの幻想であって、そこから私たちが何かを学ぶのですよね。現実はコンスル（サークル）であって、その人たちが行なう教育とは、私たちが見たくないものを見せ、想像できないような方法で、私たちを変えてくれ、もっと感受性豊かな、もっと優しい、もっと情熱のある、全ての命に対してもっと尊敬の念を持つようにしてくれます。（はい）こうした態度の変化は人間だけに対するものではないのです。貴方はコンスルに対して、貴方の体、貴方の物理的な形に起きることから逃げる映像を放映しました。それはとても賢い行為です。それに対するコンスルからの情報は得られますか？その場所にまた戻りましたか？それともそこから前に進みましたか？

クライアント：前に進み、さらに人生を経験することが選択できると思います。私はその道を選択しました。

クリス：別な人生を始めたのですか？

クライアント：そうだと思います。他の人生に行きました、そして私のサークルを忘れてしまいました。（そうなんですね）人生と人生の間にある世界に行ったかどうかは分かりません。もしかしたらそこに行き、そこから別な人生を始めたかもしれません。そして地

球的なことから抜け出せなくなり、何度も人生を繰り返したようです。(そうですか)戦いです!あのハーブレディーの話はかなり前の話です。それは大きな複数のグループの人たちがコントロールする前のことです。その前まではグループは少人数が作り、グループ内だけの人生でした。グループと他のグループの間には大きな空間があったのです。ですから、グループの人たちがすることをしていけば、それでよかったです。でも私はそうしたグループの端で生きていました。そしてグループの人たちは、私にかまわず生活していました。でも私が生まれ変わったときには、そのグループは戦争の真っ最中でした。グループが増え、権力を手に入れたい国の数が増えていて、状況は悪化してました。私はサークルに戻ることを忘れたようです。

クリス:そのことは理解できますし、それは当然だと思います。人生を何度も繰り返していたら簡単にそうなってしまいます。でももしかしたら貴方が、、、ハーブレディーがサークルを設置したのではないのでしょうか?(なぜか、議論のためにわざと奇妙な質問をした)

クライアント:違います。私はサークルから来たと思いますから。

クリス:その通りですよ!

クライアント:私はハーブレディーのときにサークルに行くことを学んだと思います。でもその存在については以前から知っていたと思います。そうでないと、、、どうなんでしょう。

クリス:それは知ることが可能です。だけど貴方は戦争に巻き込まれたと言いましたね?(はい)でも全体を見渡すと、神は、完璧なことを学ぶ為に、貴方を完璧なところに置いたと思いませんか?(はい)例え何が起きたとしてもです。(はい)なぜなら学ぶことは沢山ありますから(はい)ネガティブなことからも学べます。人間はネガティブなことから学ばなければいけないし、ごく当たり前のことから、それが無くなってしまうと、そこからも学べます。(はい)奇妙なものの見方ですが、ネガティブなことからも沢山学べます。(はい)他人のネガティブな面も、それは付き合っていく上に厄介なものですが、時間を経るにつれ、なんとかなるものです、、、質問ですが、今が、貴方にとって、再びサークルと繋がる時期だと思いますか?

クライアント:はい。再び始まると思います。

クリス:素晴らしいです、それは未来のことですか?

クライアント:いや、間もなくです、、、もう始まっています。(すごい!)この事を知っているメンバーも居ますが、全員がサークルに戻ったわけではありません。中には、まだ自分のことで忙しい人もいます。

クリス:そこから抜け出られないのですか?

クライアント:出ようと努力はしているのですが、、、

クリス:それは簡単なことではありませんよね。すべてのことを忘れて生まれ変わってい

るのですから（そうですね）それは、私たちがいかに強力な存在であるかを神が示しているのではないのでしょうか？本当にすごいです。私たちは皆神とつながっています、そうなのでは？

クライアント：はい。

クリス：サークルは、神についてどの程度知っているのですか？メンバーの皆さんは直接繋がってますよね（はい）そういった意味で、コンスルと神の関係を説明していただけますか。メンバーは皆、光の存在体ですよ、光も直接使いますし、、、光は神の「根源のエネルギー」から来るものではないのですか？

クライアント：そのはずで、それに間違いはないはずです！

クリス：なぜなら、その光は栄養を与えます、ヒーリングもします。ですからその光には何の制限もないように思えます。

クライアント：はい、それは他のどこにも無いと思います、でもそこにあります。区分されたグリッドを通して、中央から来ます、「根源のエネルギー」はいつもそこにあります。

クリス：では、この次元では、神（根源）はいつも居ると言えますね？

クライアント：はい。それはどこか別な場所にあるというのではなく、どこにでもあるのです。

クリス：では、根源の光を使えば、創造された物を食べることなくして、私たちの体を保持できるのですね。

クライアント：はい。

クリス：この情報を彼女が知ったら、面白いことになりそうです。

サークルと潜在意識が会話に加わる

クライアント：彼女はすでに知っていますよ、後は実践すれば良いのです。彼女はその全てをまだ理解していないのですが、実践したいと思っています。もし実践すれば私たちがガイドします。

クリス：素晴らしい。これは瞑想のようなものですか、何か特別な訓練か何かが必要ですか？彼女が瞑想しているときにガイドするのですか？

クライアント：はい、そのようにして彼女に伝えます。

クリス：素晴らしい、現世ではそのようにして彼女をガイドしていたのですか？（はい）すごいですね！そのようにして彼女は激励を受け、人と惹きつけることに成功したのですね。彼女は多くの人たちを集めることに成功しました。過去世で出来なかったことを今することは可能ですね？（はい）コンスルとは潜在意識と同じようだと考えていいのでしょうか、両方とも無限で永遠ですから（はい）両方とも人を助け、ヒーリングをする方法を知ってますし、根源のエネルギーを与えてくれます。

クライアント：私たちは彼女に接触しようとするのですが、彼女はそうではないのです、彼女は、、、頭が痛くなるのです。

クリス：彼女の頭痛が始まりそうになったら、いつでもヒーリングしてもらえますか？

クライアント：はい、、、私たちは、、、（合間）

クリス：どんな方法でも良いですから、彼女に何かの合図をしてくれれば、それが貴方たちだと分かると思うのです。大きな合図でも小さな合図でもいいのです。それを毎日送ってくれたらよいと思います、地球は忘れてしまう場所ですから。

クライアント：彼女はサークルのメンバーです、でも彼女はそれをいつも認識している訳ではないのです。サークルに参加することを忘れています。サークルに行っても何をするのか忘れています。

クリス：でも、今はもう分かったでしょ（はい）このセッションは録音していますから、彼女は後で聞き返すことが可能ですから（はい）ここで確認しておきたいのは、彼女が朝寝坊するときもありますが、それは彼女がとても忙しいからです（はい）ですから私はそのことは気にしません。彼女がそれをするにはどうしたらよいか教えてもらえれば最高です（注：この質問は小さなものに見えるが、実はその続きが私の頭の中にあっただ。でも返ってきた答えを聞くと質問の続きはテレパシーで伝わっていた。このようなことは過去にも一度あった）

クライアント：サークルから地球にもっと簡単に行くには彼女の体を再び軽くする必要があります（再びですか？）体を軽くすると、頭痛無しに、もっと速くいけるのです。

クリス：あー、そうなのですか。そうするために、彼女自身が何かできることがありますか？

クライアント：もっと良い色を食べる必要があります。

クリス：どんな色がいいのですか？もっと、紫色とか緑色ですか？

クライアント：オレンジ色です。

クリス：どの色が一番強力なのですか？

クライアント：オレンジと黄色です、太陽の色です。

クリス：それは純度のことですね（はい）密度の濃い食べ物を避ければ避けるほど、もっと純度が高まり、私の言う「悟り」に近づきます（はい）自然ですね（はい）そして体も軽くなる（はい）そしてサークルにも再び行ける、それがより簡単になれば、、、彼女の食生活を大幅に変える必要があるのですか？何か食べないほうがよいものがありますか？

クライアント：彼女はそれをすでに知っています。今彼女がしていることをもっとすればよいのです。

クリス：貴方が彼女をちゃんとガイドしてくれますか？（はい）貴方が常に傍にいることを彼女に知らせてくれますか？（はい）ありがとうございます。目を覆ううろこが厚くなりすぎると、どうしても物事が見えなくなってしまう（はい）そんな時に潜在意識と

かコンサルから合図でももらえると、非常にありがたいです。想像力は最も強力な道具です。それを用いて病気を防いだり、治療を行なったりできます（このことは実証されている。訳注：QHHTはクライアントの想像力を使う）同時にまた、私たちは時間を止め、肉体の老化を止めることも出来ます。東洋の多くの人たちは栄養摂取の一部として太陽を見つめます。そのような人たちは100歳以上生き、なかには数百年生きる人もいます。70年以上水も食べ物も摂取せずに生きている人も居て、人類学者が研究対象にした有名な人も居ます。彼らが気づいた事のひとつは、太陽を見つめる人たちの、濾過機能をもった器官は退化しないということです。ちょっと、興味を沸かしてくれる話ですよ、、、、。では、いつも光り輝いてください！



クリス・ターナー記 譽田光一訳

Practitioner: (Chris) - Chris Ras Namaste Turner on facebook

Practitioners Web Site: www.quantumhealingcentre.co.uk

Client Stories (Facebook Group)

Quantum Healing Centre (Facebook Group)

<https://www.facebook.com/groups/255329454521074>